配布資料

”日本初”ではなく、”日本発”。
もう一度、日本が技術大国になり、
世界をリードするためには。

仙北市 近未来創造アドバイザー
牧浦土雅（ドガ）



これまでの取組

2016年7月：
アジア8カ国からトップパイロットが集結。世界初のドローンレースアジアカップを開催
「ドローンインパクトチャレンジ2016・秋田県仙北市」







単なる遊びでは終わらない！

✔F1は自動車関連技術の開発の場として機能→産業発展に大きく貢献。
✔ドローンによってバッテリーや飛行の安定性、機体の精度が向上
→航空産業をはじめとした多くの業界にインパクトを与えることができる。

→イノベーションを生み出してこそ意味がある。

サンドボックス特区と海外事例

電波法で優遇されている仙北市（特区）ですら調整・手続きに半年弱要した。“実証”に至るまでに1年以上かかるのは遅すぎる。



英国がFinTech（金融xIT）分野で利用し、成功している「サンドボックス」を日本では規制改革・成長戦略の一環として、ドローンなどのイノベーション促進のために適用する必要がある。

語源：「子供を砂場（サンドボックス）の外で遊ばせない」

改善状況
- 英国ではこれにより、サービスリリースまでの時間を3分の1程度改善。2年間で200社以上に実施。企業価値の向上にも貢献。

仙北市のみならず、まずは全ての特区にサンドボックスを適用するべき！

これからの取組のご提案

① さらに大規模なドローンレースの開催

→2018年平昌五輪では政府バックアップのもと、非公式種目だがドローンレースが開催予定。

② アワード型国際ロボットコンペを日本政府主導で開催！


Wonderful Engineering


Venture Beat

・アメリカ国防高等研究計画局（DARPA）主催の「DARPAロボティクスチャレンジ」には、世界中から予選を勝ち抜いた24チームが参加。
賞金総額：約4.4億円

そこで日本では・・・

・ロボットのオリンピック：”Future of the World”を開催。
・ロボットには災害を想定したいくつかの課題をこなすことを要求。人命救助や原発事故などの状況も想定。

’日本初’で特区の目的である国際競争力は強化されない。さらなる規制改革と’日本発’のアワード型国際ロボットコンペでもう一度、日本を技術大国に。世界が驚く国に！

No Challenge, No Change!